

【高等学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立有田工業高等学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>・中学校時に不登校傾向だった生徒が多く在籍しており、また昨今のコロナ禍による生徒を取り巻く多様な環境の変化で、生徒の学力向上に向けた継続的な指導が難しい面があったが、教員の粘り強い指導の結果、出席状況や学力が好転した生徒も出てきた。今年度も引き続き、生徒を取り巻く学習環境や状況等の情報共有を職員間でしっかり行い、継続的な学習指導をしていきたい。心の教育については、集団の中で必要なスキルを体験的に身につけられるような学校行事(講話等)をはじめ、生徒一人一人の事情に合わせた取り組みや「生徒連絡会」をとおして、普段からの情報共有を綿密に行うことができた。アンケートの実施等による実態把握に努め、生徒の心の成長のための工夫をしていきたい。健康・体づくりについては、「生活チェック表」を軸にした生活習慣の育成や食育、そしてコロナ禍における感染症対策などを継続的に行うことができた。今年度も生徒の健康づくりのために必要な行事の精選と効果的な運営に向けて取り組んでいきたい。業務改善・教職員の働き方改革の推進については、定時退勤日を中心とした業務改善の推進や教職員の意識付けに努めた結果、前年度よりも時間外勤務時間が減少した。会議などの時間短縮に向けた工夫や教職員間のコミュニケーション、報・連・相の徹底を行い、業務改善につなげることができた。今年度もさらなる業務改善に向けて取り組んでいきたい。</p>

2 学校教育目標	勉情「愛し」「創り」「光れ」を礎とした自立型人間の育成
----------	-----------------------------

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 出席率の向上と教育活動の改善 ② あいさつ、服装、マナー指導の徹底と思いやりの心の醸成 ③ 進路保障に繋ぐ学力向上、資格取得、部活動 ④ 生徒、職員の心身の健康増進
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価				
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		評価	意見や提言
●学力の向上	○出席率の向上 ○基礎学力の向上と学習意欲の喚起	○出席率90%以上を目指す。 ○年内での進路決定100%達成を目指す。	・欠席が多い生徒の保護者と密に連絡を取り、改善に向けて家庭との連携を図る。 ・職員相互の授業見学と公開授業の実施 ・学習に関するアンケートを実施し、指導法の改善と学力の定着を図る。	A	・毎週1回、生徒連絡会で生徒の出席状況等について職員間で共有した。 ・欠席した生徒については、毎回担任より保護者への連絡を取り、生徒状況の把握に努めた。 ・授業力向上、改善のために、学習に関するアンケートを全教科で実施した。また、職員相互による授業参観を実施し、参観者から授業者に対してのコメント用紙の交換も行った。これらの結果を元に、今後も授業改善に努めていく。	A	・生徒の出席状況の毎週更新したものを、職員間で共有し、欠席が多い生徒には担任より個別に指導を行い自覚を促した。 ・出席率が89%台まで向上した。(昨年度82%) ・職員相互授業参観や事業所・保護者授業参観を実施した。また、コロナ関連の自宅待機生徒に向けてのオンライン授業(授業のライブ配信)を行った。これは、授業者も客観的に自分の授業を振り返る機会にもなり、授業力向上の一助ともなった。	A	・コロナ対策のオンライン授業を今後は学力向上に活用していくことも検討してください。(授業に出席するのが良いとは思いますが、どうしても対人関係が苦手な生徒への対応として)	教務学年
	○基礎学力向上を目指すことにより、進路保障へ繋いでいく。	◎就職率・進学率を100%にする。	・就業率を上げるための進路指導を行う中で過去問題やSPI対策の充実を図る。 ・基礎学力向上のため、国・数での小テストを行っていく。	・4年生に国語、数学の授業がないため、個別に指導を行っている。 ・進路先を決められない生徒があり、引き続き指導を行っていく。	B	・就職・進学希望者の進路先は決定することができた。 ・自分の進路を決められない生徒があり、心に響く指導ができていない。	B	・生徒自身の自己理解とともに、興味関心が持てるような進路選択へのアドバイスなど、引き続きご指導をお願いいたします。	B	進路
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートの「学校行事等への取り組み」をB判定以上を目指す。 ○1年間に心の成長を実感する生徒を100%とする。	・HR活動等を通して、寛容の精神や社会人としての当事者意識を養う指導を行う。 ・講話や講演会後の意識調査と感想文の記入を実施する。	A	・学校評価アンケートで「学校行事等への取り組み」がA判定だった。 ・講話・講演会では毎回感想文の記入を実施し、生徒の素直な感想を聞くことができた。 ・生徒と職員の信頼関係の構築に向け、傾聴の姿勢で生徒の指導に当たっていく。	A	・学校評価アンケート(2回目)「学校行事の取り組み」での生徒・保護者の評価がA判定だった。 ・講話・講演会の感想や全校集会時にメモ用紙を配布し、相手の話を理解しながら聞く態度の育成ができた。	A	・メモの習慣はよいことだと思います。相手の話真剣に耳を傾けることは社会に出てからも大切なことですので、引き続きご指導をお願いします。	教務学年
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校評価・保護者アンケートにおいて、いじめに関する学校の取り組みの項目がB判定以上を目指す。	・生徒、保護者に向け年3回のアンケートを実施する。 ・日頃から生徒の状況を職員全体で共有し、生徒の変化があった場合には速やかに面談・情報共有・保護者連絡を行う。 ・週1回「心のチェック」を実施し、気になる生徒への早期対応を確実に行う。	・定期的に学校生活調査アンケートを実施できており、生徒による学校評価アンケートではいじめに関する項目で全てA評価である。記入内容を踏まえ、個別面談、職員間の情報共有を行うことができており、保護者への連絡、意見交換も的確に行うことができていく。 ・毎日、生活チェック表で心の健康状態を記入させている。気になる生徒は、担任や養護教諭が声をかけている。また、必要時は全職員への情報共有をしたりと、早期発見・早期対応に努めることができていく。	A	・毎日の生活チェック表と合わせて定期的に「心のチェック表」を配布し、心の健康状態を記入させている。気になる生徒は、担任や養護教諭が声をかけている。また、必要時は全職員への情報共有をしたりと、早期発見・早期対応に努めることができていく。	A	・不登校の生徒も多いと思います。毎日の健康観察で、子供たちの変化に早めに気づくことは大切なことだと思います。スクールカウンセラーの先生など、専門機関との連携をお願いします。	A	生徒指導 保健
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康・体づくり」には規則正しい生活習慣が必要であることを理解できる生徒90%以上を目指す。 ●「健康に食事は大切である」と考える生徒98%以上を目指す。	・毎日の「生活チェック表」を記入することで、生徒自身が生活習慣を見直し、改善を心掛けるような意識付けをする。 ・喫食率が低い生徒への声掛けを積極的に行い、給食室への入室を呼びかける。	B	・毎日の「生活チェック表」を担任が確認し、また、登校時に保健厚生部で検温をするなど、養護教諭・保健厚生部・各科で連携を取りながら、生徒たちに声をかけることができている。引き続き、生活習慣の改善につなげていきたい。休日にはFormsを利用した健康状態の入力を行うよう、入力方法をとのえることができた。 ・生徒・保護者に向けた「給食だより」「保健だより」の発行により、毎日の生活習慣や健康への意識向上をはかることができていく。 ・食に関する講演会や給食指導を通して、食生活の重要性の理解向上に努めることができた。今後、給食を食べない生徒に対して、職員が協力して根気強く呼びかけていくことをはかっていきたい。	B	・「健康・体づくり」には運動・睡眠をとることが必要であると考えている生徒は約98%、「健康に食事は大切である」と考えている生徒は約98%であり、大半の生徒は、健康維持に規則正しい生活習慣の改善が大切であると理解できている。 ・毎日の「生活チェック表」を記入することで、生徒自身が生活習慣を見直し、改善を心掛けるような意識付けをすることができた。また、休日にはFormsを利用した健康状態の入力を行うよう、入力方法をとのえることができた。 ・虫菌が多い生徒もみられるので、歯予防教育にも継続して取り組んでいきたい。 ・喫食率が低い生徒への声掛けを継続的に行っており、やや改善もみられる。今後は、給食室への入室ができない生徒への対応策なども考えていきたい。	B	・給食を食べない生徒が、なぜ食べないのかの実態把握をお願いします。(アンケートを取るなど)	保健
	○生徒会活動と部活動を通じ社会性を身につけさせる。	○「部活動を通じ心身が健康になった」と考える生徒80%以上を目指す。	・各部活動において礼儀作法指導や他者と協力して成果を得る活動を行う。 ・協調性や達成感を得る主体的な生徒会活動を実践する。	・第1回目のアンケート実施結果では、「部活動を通じ心身が健康になった」と考える生徒は72%であった。 ・生徒が主体となりスポーツフェスティバルなどの生徒会行事を行うことができた。	B	・第2回目のアンケート実施結果では、「部活動を通じ心身が健康になった」と考える生徒は61%であった。 ・生徒会行事は中止することなく生徒が主体的に取り組む実施することが出来た。	B	・部活動や生徒会活動は、集団活動を経験するための良い機会だと思います。内容等を工夫されて、引き続きご指導をよろしくお願いいたします。	B	生徒会
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・週1回の定時退勤日を設定し、時間外に勤務している職員への聞き取りを行う。 ・会議資料の事前配布により時間短縮を図る。 ・職員間の意思疎通と報告・連絡・相談を徹底し、互いに助け合う環境を整える。	B	・月の時間外在職時間については、4月こそ平均30時間33分、45時間超過者4名(うち80時間超過者1名)であったが、10月末までの7か月平均17時間54分、平均で45時間超過者1名(うち平均で80時間超過者なし)と改善している。 ・会議資料の事前配布は確実に入っている。 ・職員相互の助け合う環境をさらに整備していくことが求められる。	B	・月の時間外在職時間については、平均16時間10分、45時間超過者がのべ10名(うち80時間超過者1名)で、11月以降に限ると平均12時間、45時間超過者なし、と改善できた。 ・会議資料の事前配布については、職員の意識も高く1年を通して行った。 ・職員間の意思疎通と報告・連絡・相談についてはよく入っているようだが、一部の先生に依存しているようでもあり、今後職員一人一人が研修・研鑽を積み、互いを助け合う存在に成長しなければならぬ。	B	・会議資料の事前配布で、会議時間の短縮できたことはよいと思います。 ・一部の先生の負担が増えないように、先生方で協力し合って、上手に役割分担をしてください。 ・職員研修などで、オンラインなどの新しいことへのスキルアップに努めてほしいと思います。	管理職

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>学力の向上については、学習に関するアンケートを実施し生徒の実態把握を行った。職員相互の授業参観で職員の授業力向上を図るとともに、オンライン授業の実施等、コロナ禍における生徒の学習の機会の確保などを行った。心の教育については、学校生活アンケートで生徒様子の変化の早期発見と対応に努め、毎週の生徒連絡会で生徒情報の共有を行い、組織的に生徒支援に努めることができた。必要に応じて、スクールカウンセラーの活用も行った。また、いじめに関しては、担任や生徒指導部で協力して面談を行うなど、早期発見、早期対応を行った。健康・体力づくりについては、毎日の「生活チェック表」と「心のチェック表」の記入で、生徒の小さな変化に気づき対応することができた。業務改革・教職員の働き方改革については、会議資料の事前配布と会議時間の短縮に努めた。各部署の業務についても職員間の報告・連絡・相談で連携し、業務改善につながるよう努力した。オンラインによる授業や集会については、効果的な活用法について、今後研修機会を増やしていかなければならない。</p>
----------------	--